地区職業奉仕委員会の武枝です。本日は職業奉仕のテーマで話しさせていただきます。

只今近藤太郎委員から、職業奉仕入門のテーマで話をしていただきました。ご自分の経験談を交えたお話でした。私の話も、近藤委員の話と重複することが多いと思われるかもしれませんが、重要なことなのだな。と思ってお聞きください。

職業奉仕は、難しいとかややこしいとよく言われます。この短い時間で理解していただけるかですが、かえって分らなくなったと無いようにしたいと思います。

スライド（2）

職業奉仕の理解のためには、

ロータリーの目的、

2つの標語、

職業宣言、

決議事項23-34、

四つのテスト、が大きなベースになっています。

ロータリーは百年以上の歴史があり、研究者、実践者の方がいろいろな言葉を述べておられます。例えば、

ロータリーは、奉仕団体だ。職業倫理追求と実践だ。人作りだ。

思いやりの心で他人に尽くすことだ。職場見学　出前授業が重要との意見や、自分の職業スキルを使ってする奉仕活動だ。あるいは、

仕事を続けているだけで職業奉仕活動だ。等の意見があります。

　これを整理したいと思います。

スライド（3）

日本語では、職業奉仕

西洋では　ボケイショナル　サービス　と呼ばれます。

スライド（4）

職業奉仕の言葉を分けて考えてみます。

職業とは、何か事業をして儲けることですし、

奉仕には儲けるという概念はないと思います。

このように、分けて考えると意味不明になります。

これが、むつかしい　分かりにくいと言われる所以です。

米山梅吉さんは最初　サービスを奉仕と訳しましたが後は、日本語に訳さず　サービスで通しました。

ボケーショナルは、職業、仕事、天職と思っていいのですが、

サービスをどう捉えるかが問題です。

サービスの意味を辞書で引くと　ロータリーが考えるサービスにぴったりの日本語はありません。

サービスには、公務、供給、用務、兵役、勤務、客扱い、貢献、奉仕、役立つ、世話するなどの訳があり、奉仕はサービスの訳の極一部で、もう少し広い意味で用いられているものと思われます。

ボケーショナル　サービスは、

即ち、仕事とサービスの関係を述べたものです。

次のスライド

ロータリーの目的を考えてみます。

「ロータリーの友」の表紙を開けたところに、「ロータリーとは」、と「ロータリーの目的」「四つのテスト」が毎回出ています

そこには、詳しく

ロータリーが何をする団体かが書いてあります。

スライド（5）

ロータリーの目的ですが

ロータリーの目的は意義ある事業の基礎としてサービスの理念を奨励し、これを育むことにある　とあります。

事業の基礎として、イデアル　オブ　サービス（奉仕の理想ではない）の理念を進めることです。

ロータリーの目的は、サービスの考え方を基礎にして奨励し、育み行動せよ。です。

スライド（6）

ロータリーの成り立ちですが、

２０世紀初頭は悪徳と信用不安が横行し、自分は自分で守らざるを得ない状況だったといわれています。

すなわち、儲けたものが勝ちの世の中で、

自分は正しく、騙されたものが悪いのだとの考えが横行した時代です。

このため、信頼できる仲間を作って増やしたいと考えたのが、ロータリクラブのスタートです。

そこへシェルドンが入ってきて公明正大に経営している会社等が大成功していることで

「常に他人の立場を考えて他人のためになるようなサービスを実践しているものが成功をおさめる」と気づいた。

同じく、コリンズもサービスの重要性に気付き、

2つの標語が生まれました。

スライド（7）

標語は２つあります。この２つはペアーとして捉えています。

最もよくサービスする者最も多く報いられる　これは、シェルドンの言葉です。

最初の英文の主語は「One」ではなく「He」でしたが２０１０年に改正されました。

超我の奉仕　フランク・コリンズ　の言葉です。これが第一の公式標語です。

サービス　アバブ　セルフ

超我の奉仕とは、自分の上にサービスをおくことで、自分を後にしてサービスをしようというものです。

「「最もよくサービスするもの最も多く報いられる」これを普通の読み方をすると、何かをすれば、その見返りがあるあるかのように聞こえる言葉ですが、サービスを語るのではなく、自分を乗り越えて、すべてを乗り越えて、自分が奉仕することが、この標語の意味です。

スライド（8）

サービスについての高潔性をどうするかが問題です。

サービスにより、お客の望みをかなえて自分も良いだけではだめでそのためにロータリーの目的の第２項があります。その内容は、

職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて　価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること

サービスは求める人と提供する私の二人ですが、これだけではだめで、モラルの向上も必要です。と書かれています。

法律を守るは最低限で、道徳的水準を上げる。モラルの向上が必要です。

このため、職業の高潔性が書かれています。

ロータリーのスタートの時からポールハリスの設立の目的の一部で、１９１５年サンフランシスコ大会で採択された倫理訓から始まり、1989年の職業宣言があり、日本での近江商人の、相手良し，自分良し、世間良し、の三方良し、の倫理観が必要です。

スライド（9）

1989年に採択された職業宣言は、1915年の倫理訓がベースになっており、ここには、黄金律　　（自分のしてほしい事を他のひとにもせよ）　　が入っていました。

これでは、宗教色強いことで１９５１年に全て消されたが１９８９年に職業宣言として復活しました。

サービスの考え方と表裏一体のものです。

手続要覧、ロータリー百科事典に乗っています。以下次の６項目からなります。皆様は、多くの方が、まだ一読されていないかもしれませんので、読んでみます。

1）職業はサービスの一つの機会なりと心に銘せよ

2)職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道徳基準に対し、
　 名実共に忠実であれ。

3）職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理的
　 基準を寄進すべく全力を尽くせ。

4）雇主、従業員、同僚、同業者、顧客、公衆、その他事業または
　 専門職務上関係を持つすべての人々に対し、ひとしく公正なるべし。

5）社会に有用なすべての業務に対し、当然それに伴う名誉と敬意を
　 表すべきことを知れ。

6）自己の職業上の手腕を捧げて、青少年に機会を開き、他人からの、
　 格別の要請にも応え、地域社会の生活の質を高めよ。

スライド（10）

ここでもう一度　ロータリーの目的を述べます。

ロータリーの目的を、意外と勘違いしている人が多いかもしれません。

事業を基礎にしてサービスや奉仕をすると思っているかもしれません。

自分の事業のスキルやノウハウを使う、又事業の資金を使って世のため人のために奉仕をしようと思っている人が多いと思われますが、

そのことは立派なことですが、ロータリーの目的は、事業の基礎にサービスの考え方を持っていくこと。

✕若いからロータリーに入るのは無理だ

×あの会社の大きさではロータリー活動についていけない等ではなく

〇若い人、これから始める人にサービスの考え方を知ってもらって、大いに儲けて貰って

世のため人のためになることをして、人脈も広げて大きな活動をするように、ロータリーに入ってもらうべきです。

スライド（11）

ここでもう一度職業奉仕（ボケイショナルサービス）の考え方を示します。

ロータリーはサービスを志向しています。

サービスとは貴方の望むことをしよう。つまり顧客第一ですから大いに喜ばれ、感謝されます。

お客様だけでなく家族、社員、取引先、みんなの、望みを叶えましょう。

よく「ロータリーにノーは無い」と言われます。サービス志向だからです。

無償のサービス、奉仕大いに期待しています。

スライド（12）

以上いろいろ述べましたが、

ロータリーは道の概念です。

武道茶道柔道などで、教義や法律などなく、自分なりに解釈して自分の考え方、方法で大いに進めてください。

ご清聴ありがとうございました。